



▲ 昨年の報恩講ご講師 花田照夫師 (12月16日撮影・当山)



金光寺寺報  
第223号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
☎ 0982  
83-2338

### 今月法語カレンダーのことば

人も草木も虫も同じものは一つもないおなじでなくてみな光る

榎本栄一さんの著『念仏のうた 光明土』に見られる言葉です。原文は次のようになっています。  
いのちの饗宴  
一天上天下唯我独尊一  
人も草木も虫も同じものは一つもうまれない  
いまうまれたものこれからうまれるものごらんください  
同じやなくてみな光る  
白色白光 青色青光  
「十人十色」という言葉があり、人は、考え・好み・性質などがそれぞれ違うことを意味します。この法語では、さらに人だけでなく、草も木も虫も、すなわち植物や昆虫、さらに動物にまで拡げて、同じものは(うまれ)ないといわれます。現在も未来も、すべて生きとし生けるものはみな同じでなく、それぞれが光を放つのであるといわれているのです。ここでは『阿弥陀経』の「青色青光・黄色黄

光・赤色赤光・白色白光」の四句のなか、上下の二句を選んでみます。極楽浄土の池のなかには、車輪のような大きな蓮華が咲いており、青い華は青い光を、黄色い華は黄色い光を、赤い華は赤い光を、白い華は白い光を放ち、いずれも美しく、その香りは気高く清らかです。  
「一切衆生悉有仏性」(すべて生あるものは、ことごとく仏となる可能性を有している)、「草木国土悉皆成仏」(心のあるもののみならず、こころのないものまで、すべてのものが成仏する)という仏教のことばがあります。人間のみならず、生きとし生けるものに共通するのは、仏性があり仏に成ることができるという意味です。そのうえで、それぞれの個性が発揮されるのです。  
(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載 『月々のことば』より抜粋 転載)

### 仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事は休みます。よろしくお願ひします。

◎ 1 月			
	22日(水)	終	日
	28日(火)	終	日
	30日(木)	終	日
◎ 2 月			
	17日(月)	終	日
◎ 3 月			
	5日(木)	終	日
	20日(金)	終	日

12月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。  
2019年12月 2日 満73歳 宇城市 長澤行東様  
2019年12月26日 満90歳 寺村石田愛子様

ホームページ開いています。  
URL <https://konkouji.jp/>  
1月9日現在アクセス数 97,827人

かを寒んぎたもでをン帰だをしれ日う両肩れおやまとよけるよただと切梵  
つ終い暗かのらき買うつけ買なば後な方にたきなせ思だまこくがろはれ鐘昨  
たえしくらはいなついでいけなにつ切軽鎖まのんわきせとよ暗うわてを年  
る`なのい`いてズきはにれらはてれくはすで`れく`んがく`て修らま発十二月  
事`のり`作い修の帰まで修行ばな除いて当片`こそたてで分見`てよ理`ずい撞二月  
(が状見業が理で宅でか理`とい夜た頭`つ方`つ`こう方`や`しか`て`よ`理`ずい撞二月  
で況えに`の坊`行らでたサ`ののに`ただいで思もめ`たりみ`く`し`まい`十六  
きでなな夕作守`き判`きのン急鐘で`当`だ`で`明`わ`あ`た`残`る`わ`よ`鎖`した`外`六  
ま何くり方業に人`明`なでういを`した`けたに`られる`っ`り`と`り`か`り`と`外`鎖`日  
松井卓郎`た`か`る`だ`四`開`伝`は`要`再`こ`が`ズ`修`か`う`た`し`で`う`に`の`も`ち`い`れ`ま`れ`切`が`、  
)`良`理``だ`過`して`理`品`サ`が`鎖`鎖`を`け`五`ど`が`い`切`て`い`れ`、`撞`い`ん`し`の`た`然`、

### 仏教名言ノート

山々の  
山々の  
山々の

家族の一員として扱うのです。これをコンパニオンアニマル(伴侶動物)と呼んでいます。  
奈良時代の高僧・行基菩薩の七十歳の時の話です。  
行基菩薩は弟子たちとともに大和(現在の奈良県)の山林を旅していましたが、菩薩が山鳥の鳴く声を聞いては念仏し、山猿の飛び交うを見ては称名する有様なので、旅はいっこうに進みません。たまりかねた弟子たちが「道を急ぎましよう」というと、菩薩は  
山ごりのほろりとなく声聞けば  
ちちかこぞ思ふははかぞおももふ  
と口ずさみ、一切衆生(いっさいしゅじょう)は前世からの父母兄弟であり、

たいへんお世話になった。それを思うと、いたすらに道を急ぐには及ばないと教えられた、という話です。  
この行基菩薩の和歌は『玉葉(ぎょくよう)』和歌集』にも引用されており、また、『方丈記』にも引用されています。  
『歎異抄』にも、「一切の有情は、みなもつてせ々生々(せせししょうじょう)の父母(ふぼ)・兄弟なり」という文がありますね。  
大も家族の一員として扱われ、寿命が延びたというのです。しかし、その分、今度は成人病に悩まされるのです。そこまですべて人間に似なくてもいいのにーネ。  
(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「続・仏教名言ノート」から)

### 任職ひとりごと